

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター(国際連携機構)
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 日本語教育の全学的体制に係る新たな人事構想案を策定する。	人事構想案の策定状況 評価基準: A→人事構想案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			D	B	B
2. 常勤講師の充足率を100%にするための見直し案を作成する。	見直し案の作成状況 評価基準: A→見直し案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			A	A	A
3. 日本語教育センター内の連携・連絡体制案を策定する。	連携・連絡体制案の策定状況 評価基準: A→連携・連絡体制案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			A	A	A
4. 日本語教員の資質・能力向上のための活動案を作成する。	活動案の作成状況 評価基準: A→活動状況案を作成 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定			A	A	A

☆

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
5. グローバル人材育成推進事業の一環でセンターが2013年度より新たに提供するようになった「日本語教育科目」を担当するための常勤講師を新たに採用する。	→常勤講師の採用状況 A→採用した B→未採用だが2013年度中に採用予定あり C→未採用だが2014年度に採用予定あり D→未採用で採用予定なし					A
	→					

☆

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

<p>目標1</p>	<p>B</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度以降、他大学における日本語教育科目の提供状況と専任教員の人数等を調査し、必要な教員数の算出を行って、今後、人事構想委員会で検討するための基礎資料を作成することとし、2013年2月から3月にかけて東京並びに関西の主だった日本語教育機関(早稲田大学、上智大学、ICU、同志社大学、立命館大学、関西大学、大阪大学)、及び2013年度2月から3月にかけて、多くの留学生を受け入れている国内の日本語教育機関(学習院大学、立教大学、明治大学、南山大学、立命館アジア太平洋大学(APU))の日本語教育科目の提供状況と専任教員の人数等についてヒヤリングを行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 留学生数に対する専任教員、任期付教員、非常勤講師の人数、及び業務の役割分担など、各大学の現状を把握することにより、本センターの教員・教員組織の問題点及び課題を具体的な形で明確化することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 専任教員、任期付教員、非常勤講師の間の業務の役割分担と権限の明確化を行う。同時に、新中期計画に基づいた留学生数のさらなる増加に対応するための、専任教員、特別契約教員、任期付教員、非常勤講師数の適正な人数・配置案を作成し、学長室に要望する。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標2</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度に2件、2011年度に1件の採用人事を行い、常勤講師の充足率は100%となった。しかし、特別契約教員は1名欠員のままであるため、その枠で2012年度中に常勤講師を1名採用し、しかるべき時期に特別契約教員の採用人事を実施するという案を作成し、学長室の了解を得た。このことを受けて、2013年4月1日付けで特別契約教員枠(1名)で常勤講師を1名採用した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 常勤講師の充足率は2013年度に100%となったものの、2013年度末に5名の常勤講師のうち3名が一度に自己退職し、常勤講師制度の問題点が浮き彫りになった。常勤講師の4年の任期を前提としない教員組織作りが喫緊の課題であることが明らかとなった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 他大学と比較して劣る常勤講師の契約条件の見直しを学長室に要望し、優秀な人材の獲得と4年間定着してもらうための条件改善を図る。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>
<p>目標3</p>	<p>A</p>	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 日本語教育センターの執行部による連絡会に加え、センターに所属する全教員が参加する「拡大日本語教育センター連絡会」を月1回開催するという案を策定し、2012年度は10回実施した。さらに、2013年度からは特別契約准教授、日本語常勤講師の連携を密にするために、月1回講師室会を開催することにした。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 常勤講師との意思疎通及び連携が密となり、現場で生じた課題や問題点の共有が適切に行なえるようになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 講師室会のメンバーに、センター副長及び専任教員も参加し、執行部との連携をさらに円滑に行うようにする。</p> <p>その他</p>	<p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p> <p>☆</p>

目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 日本語教育センターが主催する「関学日本語教育研究会」におけるFD活動の実施案を作成し、すでに2011年度、2012年度に実施している。その内容は2011年度、2012年度の各3月刊行の「日本語教育センター紀要」で詳細に報告されている。また、2013年度は初めての試みとして、3月の関学日本語教育研究会で非常勤講師も含めた多くの教員が実践報告を行い、授業活動の改善に向けた工夫を共有した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か センターの教育活動の質向上に寄与している。特に3月の実践報告会は、本学の日本語教育に対する非常勤講師の積極的な参加・関与を促すきっかけとなった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「関学日本語教育研究会」をさらに充実させ、非常勤講師の参加を促す。また、日本語教育センター紀要に実践報告会の報告を掲載し、本学の日本語教育活動のさらなる質的向上を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標5	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか グローバル人材育成推進事業の一環でセンターが2013年度より新たに提供することになった「日本語教育科目」を担当するための常勤講師を新たに採用する。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「日本語教育科目」を主に担当するための常勤講師を1名採用した。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度に採用した常勤講師が1年で自己都合退職したため、2014年度にその補充のために常勤講師を1名採用する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆